

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市都市計画審議会小委員会(第6回)				
事務局 (担当課)		まちづくり計画部 都市計画課 電話042-769-8247(直通)				
開催日時		平成30年11月15日(木) 午後2時~4時				
開催場所		相模原市民会館4階 第3中会議室				
出席者	委員	8人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	13人(都市建設局長、都市計画課長、他11人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		(1) 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画について <ol style="list-style-type: none"> 1 検討手順の確認 2 都市計画マスタープラン全体構想 3 立地適正化計画 (2) その他				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員長の発言、 は委員の発言、 は事務局の発言)

(1) 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画について

1 検討手順の確認

2 都市計画マスタープラン全体構想

事務局から資料説明を行った後、質疑を行った。

尾根幹線は相模原市内の国道16号とつながっていく路線であり、多摩ニュータウンの土地利用の見直しを踏まえ、連携は必要である。

拠点については、主たる拠点と2次的拠点による連携の考え方が分かるように、重要度を示した方が良い。

相模原市は、アンケート結果等をみると、交通の便が良いから住むという意見と交通の便が良くないから住まないという意見の両方が出てくる。市民目線に立ち、横浜や新宿とつながっている市の位置付けを広域的な視点から整理する必要がある。

鉄道は単なる移動の足ということだけでなく交流をするための軸であり、路線バスとはレベルが異なる。今後縮退する中で他の都市とどのようにつながって魅力を維持するか示すべきである。

都市構造と都市づくりの各分野の課題がつながってくると理解しやすくなる。

次期総合計画における基本計画等の進捗に応じて、今後、都市計画マスタープランにおける都市づくりの方針の内容も整理していく。

都市部と中山間地域が混在しているのは本市の特徴であり、両方の要素を盛りこまないといけないジレンマがある。

メリハリのある都市構造は良いが、今後の不確実な時代を背景に、将来の可能性を残すことも必要である。

都市構造からの具体的生活イメージが分かりづらい。人口減少を前提とした時、都市部在住の方が農業環境を求めて中山間地域に移住するなど、市内の中で生活が完結できる魅力といった内容が入ると興味深くなる。

新宿、町田、八王子、山梨まで意識することが重要であるとともに、利便性の高い市街地ゾーン(都市部)と暮らしの維持を図るゾーン(中山間地域)の違いが分かるよう理解しやすくなっていく。住民目線に立ち、地図とゾーンが重ねて示されるとより分かりやすい。

イメージしやすいように図を再構成する。

現行計画と大きく異なる点は生活拠点の考え方が入っており、身近な拠点も守っていくという視点が示されているのはよい。今後、集約して連携していくことを市民に

審 議 経 過

対して上手く伝えていくことが重要である。なお、富山市では、今までの暮らし方・歩いて暮らすというこれからの暮らし方の考え方を丁寧に説明している。ゾーンや拠点におけるライフスタイルを示すと分かりやすくなり、その後の地域別計画につながっていく。拠点は日常生活サービス面など質的な要素を含めて整理されているが、一方、軸は事業など物理的な要素で整理されている。しかし、軸についても観光など質的な要素も加味する必要がある。

ゾーンと拠点におけるまちのイメージをライフスタイルに応じた居住イメージとして示すように再度検討する。

旧津久井町などと合併した本市の特性から、中山間地域に拠点があると面白い。中山間地域には山並み景観や貸農園の活用などの自然を生かした住環境の可能性がある。

現行計画における都市構造図はこれまでの都市計画マスタープランの典型であり、1つの事柄を示さずにあえて抽象的に表現している。一方、今後のマスタープランでは、より具体化が求められており、拠点や軸等について、質的な違いまで示していくことが必要である。

また、公共交通軸については、サービス水準の視点があり、マスタープランの中で示す必要がある。その理由としては、人口減少の中、全て行政が負担するのではなく、都市構造とサービスの両立を民間も含めて長期的に合意形成を図る必要がある、その共通の方向性を示すものが都市計画マスタープランである。そのため、近隣市との連携を踏まえながら、それぞれの地域の住まい方を市民の方がイメージ出来る形で示すことが重要である。

20年後のゾーンが現状の土地利用をベースに整理されているが、今後変化する可能性を含めて整理する必要がある。

3 立地適正化計画

事務局から資料説明を行った後、質疑を行った。

立地適正化計画が必要か否かを考えると、必要であると言える。

相模原市は、町田市や八王子市とのつながりもあったりする中で、何処とつながりを持っていることで都市の価値を生んでいるのかを考える必要がある。相模原市は、新宿・横浜市等とつながりが強いところに価値があると考えられるため、今後何処とつながりを持ち、市がどのような役割を担うのかを整理するのも1つの方法である。

他市との結合の視点は重要であり、別途近隣市へのヒアリング等を実施する予定である。

スーパーマーケットは、中山間地域で撤退リスクがあるものの、ネットスーパーも考慮すると、今までとは違った方策で対応が可能になるのではないかと。また、高齢者と子どもが交流する場の確保をすることなど、子育てに対する別の視点での対応も考

審 議 経 過

えられる。さらに、自動運転等の新技術を考慮すると、中山間地域においては、これまでと異なる視点での対応が可能になるのではないか。

ネットスーパーは、輸送網が維持されることが前提となるが、中山間地域は離島並みのサービス水準になると聞いたことがある。可能であれば、中山間地域の宅配拠点の状況など将来動向を調査していただきたい。

相模原市は、多様な人が住んでいる特徴がある。立地適正化を図るのは都市の機能だが、住まい方にも直結しており、住まい方を考えるのが計画策定の基本的な趣旨になる。都市機能の立地と住まい方を同時に議論すると混乱することもあるため、例えば、中山間地域は、集落から生活拠点までを結ぶ方法と、そこから橋本等を結ぶ方法を分けて考えると生活イメージがしやすいと思う。都市部も同様で、まとまった居住地形成と公共交通の利用促進に向けた必要性をまとめすぎている部分がある。

新技術については国でも議論になっており、都市構造を議論する必要がないのではないかという意見もある。しかし、日本の場合は鉄道を中心とした都市構造で、モータリゼーションの発達の前に鉄道が発達したため、まちの構造がアメリカとは異なる。自動運転がレベル5に到達した時のまちの構造によって、まちのあり方が変わってくる。

また、人の生活の基本である健康を考えた場合、食事・運動・社会参加と言われているが、個別にサービスを受けられても、社会参加ができない可能性もある。実現までに時間を要することもあり、今の条件の中でどのように対応するのかについても考えておく必要があると言われている。

今ある駅周辺の市街地が将来的に大きく変わる可能性がある。相模大野が顕著な例で、伊勢丹の撤退など、中心部でもこのようなことが起こる。駅から伊勢丹までの間の商業テナントが外へ出ていってしまう可能性もあり、商業地でなくなることも考えられる。

今後、橋本周辺を新たに整備していくことになるが、状況変化が十分あり得ることを踏まえておく必要がある。集約型に移行して拠点が市を牽引する形に価値観が変わることは望ましいと思うが、総花的にならないものを考えられないか。

まちの変化を念頭に置いた「柔軟性をもったまちづくり」が重要であり、計画では、そういう視点も加味した示し方をしていきたい。

都市部が高齢化することが今後の課題であり、人口密度は維持されるが高齢者が増加することを考える必要がある。むしろ、中山間地域は高齢化の耐性ができているため、今後の変化に対応しやすいのではないか。

また、高齢者は、前期と後期で対応が異なる。例えば、後期高齢者には介護施設が必要であったり、近くにスーパーがあっても利用しない等の傾向がある。福祉系分野では在宅へ移行しており、施設をこれ以上増やさないと、入院を減らして訪問で看取る方向で様々な事が動いており、今後は施設計画の考え方が変化する。

審 議 経 過

20年後と50年後で高齢者の動向が異なるため、生活拠点を長い時間軸の中で検討する必要があると感じた。例えば、多様な施設がある中で、施設の中身を時代に合わせて入れ替え可能にするような拠点づくりが必要になってくる。旧市は問題ないようにも見えるが、団地や郊外住宅地等の課題を有している。

都市部は、中山間地域よりも問題意識が低いと思われるため、先手を打って検討する必要がある。

また、居住誘導区域の設定に向けて、特に、非線引き都市計画区域の設定が気になっている。他都市では誘導区域外を別の名称で位置づけている事例もあるので、検討していただきたい。

居住誘導、都市機能誘導のエリアの考え方はまだ入れ込んでいない。今後、立地適正化の基本的な方針が定まっていく上で示していきたい。

まちが成長することを考えると、全て平等に取り組むよりも、箇所を絞り込んで取り組むスタンスがあった方が良くと思う。ただし、実現までに時間を要することと、現在生活している方もいるため、誘導と新たな地域運営を上手く表現してほしい。

また、立地適正化計画で念頭に置いている居住は、都市施設のある場所に住まなければならないという発想になっているため、それに漏れてくる場所が出てきてしまう。しかし、互助の力で機能を補い生活している場所もある。今までの都市計画にない“互助の力”をどのように位置けるか。一団地などの変更しにくいまちづくりによる弊害も出てきており、今後は柔軟に変化させられるものを考えられると良い。

「維持」がキーワードになっているが、維持することは非常に難しく、成長を目指さないと実現できないと思う。新しい取組などを実行し、結果的に維持されるものだと考える。

(2) その他

< 次回の日程 >

平成30年12月25日 13時30分～

以 上

相模原市都市計画審議会小委員会(第6回)委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	飯島 泰裕	青山学院大学 社会情報学部 社会情報学科 教授		出席
2	伊藤 彰英	麻布大学 生命・環境科学部 環境科学科 教授		出席
3	加藤 仁美	東海大学 工学部 建築学科 教授	副委員長	出席
4	西浦 定継	明星大学 理工学部 総合理工学科 教授	委員長	出席
5	保井 美樹	法政大学 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 教授		出席
6	高橋 三行	相模原市農業委員会 会長		欠席
7	落合 幸男	相模原市農業協同組合専務理事		出席
8	座間 進	相模原商工会議所専務理事		欠席
9	大塚 亮一	公益社団法人神奈川県 宅地建物取引業協会 副会長		出席
10	澤岡 詩野	ダイヤ高齢社会研究財団 研究部 主任研究員		出席
11	中西 泰子	相模女子大学 人間社会学部 社会マネジメント学科 准教授		欠席